タウンニュース足柄版　　2014（平成26）年10月11日（土）

来春移転予定
㈱トヤマ

森づくり着々

宮脇氏指導で2度目の植樹

２０１５年４月の山北町移転に向けて、同町の丸山山頂で社屋と工場の建設を進める株式会社トヤマ（座間市ひばりが丘・遠藤敬介代表取締役）が５日、敷地内に在来種の苗木６千本を植える植樹を行った。

植樹には遠藤社長（左）をはじめ360人が参加した＝5日・山北町丸山

トヤマは、最先端技術のモノづくりに取り組む技術者に、研究用の実験装置などを供給する精密機器メーカー。「創業60年のベンチャー企業」とも称され、世界各国の企業や研究機関などと取引している。

三井造船が所有する丸山山頂への本社移転を昨年６月に発表し、山頂部約２・９ｈａ整地して新社屋と工場を建設している。

来年４月には従業員１５０人が座間市から移転し、将来的には３００人規模の事業所とする計画だ。

同社が昨年から取り組む山頂部での植樹は「トヤマ平成の森づくり」の一環で、横浜国立大学の宮脇昭名誉教授（86）の指導のもと、森づくりをサポートするエスペックミック㈱（愛知県丹羽郡大口町）や植樹用のポット苗を栽培する社会福祉法人進和学園（平塚市）の協力を得て進めている。

宮脇氏は土地本来の木を植える森づくりを提唱し、新日鐵住金大分製鐵所での工場緑化をはじめＪＲ東日本やトヨタ、ホンダ、イオンなどの森づくりを40年以上にわたり指導している。

台風18号が接近するなか従業員ら約３６０人が参加した５日の作業では、工場周囲を９区画に分け、周辺に生育するシラカシやタブノキ、イロハモミジなど高低36種類の苗木を植え、７・７ｔのワラを根元に敷き詰めた。

苗木の植え方を指導する宮脇昭氏（左）

宮脇名誉教授は「先見性を持ち森づくりに取り組む会社はいずれもトップ企業になっている。最先端技術をもつ企業が自然との共生を哲学として取り組むことに敬意をもち、お手伝いしている」と話す。

遠藤社長は「本社移転の際には宮脇先生指導のもとで森づくりに取り組みたいと考えていた。最先端工場を作ることは同時に自然破壊でもある。森づくりはそのお返しの一つ。眺望が楽しめる地産地消の社員食堂なども設け、地域と共生していきたい」としている。

同社は２０１５年４月10日に竣工式と第３回目の植樹祭を行う予定。